

第2章 プログラム作成からダウンロード/ 実行までの流れ

ソフトウェア開発環境の 構築と使用方法

山口 晶大
Akio Yamaguchi

本章では、dsPICのプログラム開発を行うためのソフトウェア開発環境を構築し、その使用方法を解説します。dsPICには“MPLAB”という統合開発環境が用意されており、最新版はマイクロチップ・テクノロジー社のウェブ・サイトからダウンロードすることができます。

<http://www.microchip.co.jp/>

ソフトウェアを二つインストールする

● 開発ツールの動作環境

MPLABが対応しているOSはWindows 2000 SP4、Windows XP SP2です。Windows Vista(32ビット)対応についてはバージョン7.60で初期評価を行ったところで、公式にはWindows Vistaには未対応だそうです。CコンパイラC30はMPLABの環境に組み込まれる形になるので、対応OSはMPLABと同じです。

● 統合開発環境MPLABのインストール

インストール・プログラムmpXXXinstall.exeを実行してください。XXXの部分にはバージョン番号が

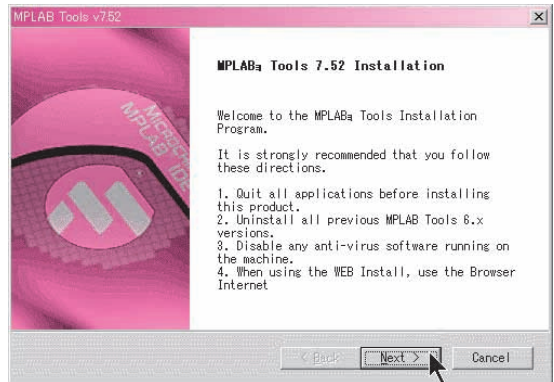


図1 統合開発環境MPLABのインストール・プログラム起動画面 [Next] ボタンを押す

入ります。付録CD-ROM収録のプログラムはmp752install.exeです。

① インストール・プログラムの起動画面(図1)が出たら [Next] ボタンをクリックする。

② ライセンス条件の確認画面では「I accept the terms of the license agreement」を選択してから [Next] ボタンを押す(図2)。

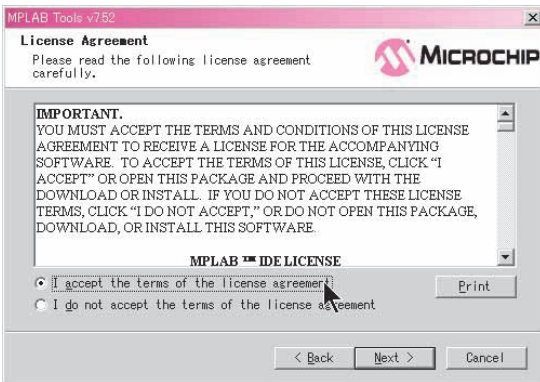


図2 ライセンス条件確認画面

「I accept the terms of the license agreement」を選択してから [Next] ボタンを押す

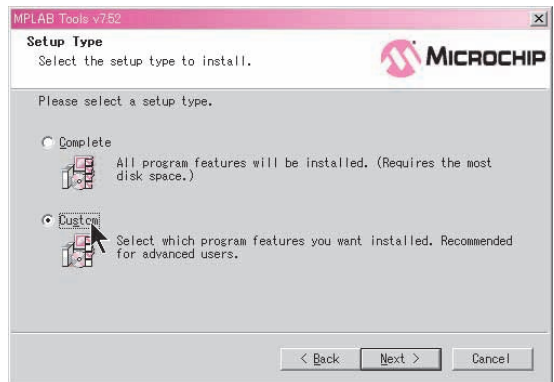


図3 セットアップ・タイプ選択画面

「Custom」を選択してから [Next] ボタンを押す

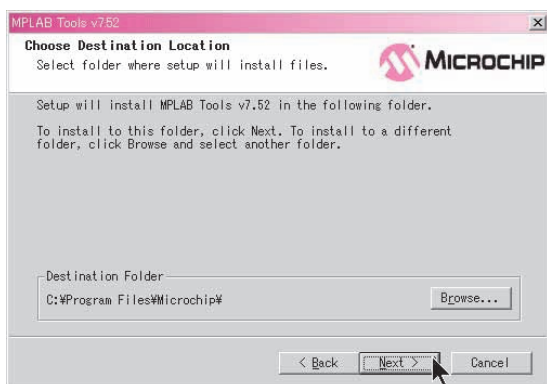


図4 インストール先ディレクトリ選択画面
デフォルト設定を変更しないで [Next] ボタンを押す

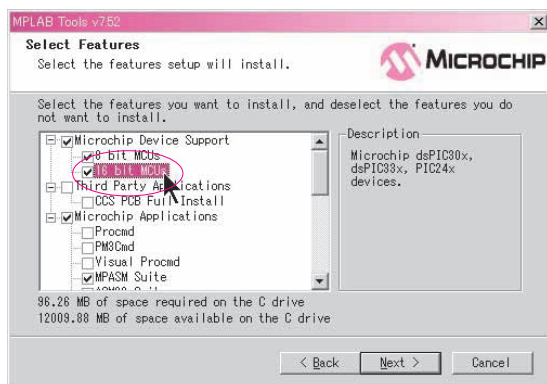


図5 インストールする機能の選択画面(1/2)
「16 bit MCUs」を選択してから [Next] ボタンを押す

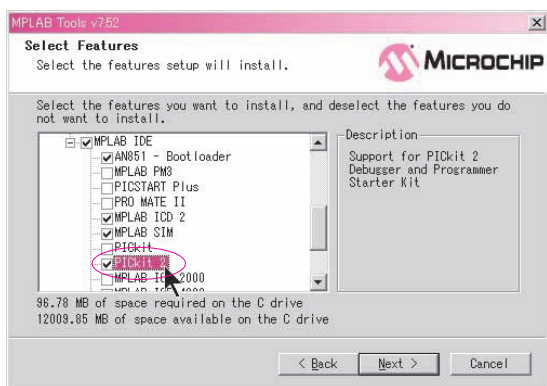


図6 インストールする機能の選択画面(2/2)
PICKit2を使用して開発する場合は「PICKit2」も選択しておく



図7 インストール終了確認画面
[Finish] ボタンを押してMPLABのインストール作業を終了する

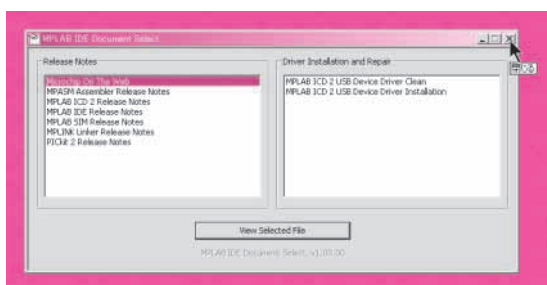


図8 ドキュメントの表示画面
MPLABインストール終了後にこの画面が表示されるが、右上の×印をクリックしてすぐに閉じてよい



図9 デスクトップ上のMPLAB起動アイコン
このアイコンをダブル・クリックするとMPLABが起動する

- ③ 図3の画面では、必ず「Custom」を選択してから [Next] ボタンを押す。
- ④ インストール先のディレクトリは特別な理由がないかぎり変更しないで、[Next] ボタンを押す(図4)。
- ⑤ 図5の画面では必ず「Microchip Device Support」の「16 bit MCUs」を選択してから [Next] ボタンを押す。ブートローダを使わずにPICKit2を用いて開発する場合は、ここで「PICKit2」も選択しておく(図6)。

- ⑥ 次の画面で [Next] ボタンをクリックするとインストールが始まる。
- ⑦ インストールの進行表示画面が終わって、図7の画面が出たら [Finish] ボタンを押してインストール作業を終了する。
- ⑧ 最後に図8の画面が出るが、これは右上の×印をクリックしてウィンドウを閉じる。
インストールが終わるとデスクトップ上に図9のようなMPLABのショートカット・アイコンが出ます。ここをクリックするとMPLABが起動します(図10)。この状態でMPLABとともにアセンブラもインストールされていますから、Cコンパイラをインストールしなくてもアセンブラでならばプログラム開発が可能です。